

今年4回目の米利上げ

ポイント① 米国の景気は堅調との判断

12月18、19日開催のFOMC(米連邦公開市場委員会)では政策金利であるFF(フェデラルファンド)金利の目標レンジが0.25%引き上げられ、2.25～2.5%となりました。利上げは9月に続くもので、今年4回目となります。

FOMC後の声明によれば、米国景気は堅調に推移しているとのこれまでの見解を概ね踏襲しています。一方、経済見通しが上下に振れるリスクは均衡しているとしながらも、世界経済や金融市場の動向の影響を注視するとして警戒感を示しています。

ポイント② 金利見通しを下方修正

金融政策の決定と共に発表されたFOMC参加者の経済見通しでは、図1が示すように、9月の前回見通しと比べて2019年の実質GDP(国内総生産)成長率、インフレ率、FF金利の見通しの中央値が下方修正されました。

また、中長期の姿としては、実質GDP成長率は上方修正されたものの、FF金利は下方修正され、中立金利水準の見方が下がったことを示しています。

ポイント③ 残る追加利上げの可能性

2019年に想定される政策金利の引き上げ幅が従来の0.75%から0.5%となり、中立金利水準の見方が下がったことは、利上げ停止が近づいたことを示唆しています。ただ、FOMC参加者が米国景気は堅調に推移していると判断していることから、追加利上げの可能性は消えていないようです。

早期利上げ停止を期待していた米国株式市場では失望感が生じ、19日の株価が下落しました。一方、債券市場では、中長期の金利想定が引き下げられたことから、長期債利回りが低下(債券価格は上昇)しました。

図1：FOMC参加者の経済見通し中央値

	予測時点	2018					中長期
		2018	2019	2020	2021	2021	
実質GDP ¹	18年12月	3.0	2.3	2.0	1.8	1.9	
	18年9月	3.1	2.5	2.0	1.8	1.8	
失業率 ²	18年12月	3.7	3.5	3.6	3.8	4.4	
	18年9月	3.7	3.5	3.5	3.7	4.5	
個人消費支出デフレーター(総合) ¹	18年12月	1.9	1.9	2.1	2.1	2.0	
	18年9月	2.1	2.0	2.1	2.1	2.0	
個人消費支出デフレーター(コア) ^{1,3}	18年12月	1.9	2.0	2.0	2.0		
	18年9月	2.0	2.1	2.1	2.1		
FF金利 ⁴	18年12月	2.4	2.9	3.1	3.1	2.8	
	18年9月	2.4	3.1	3.4	3.4	3.0	

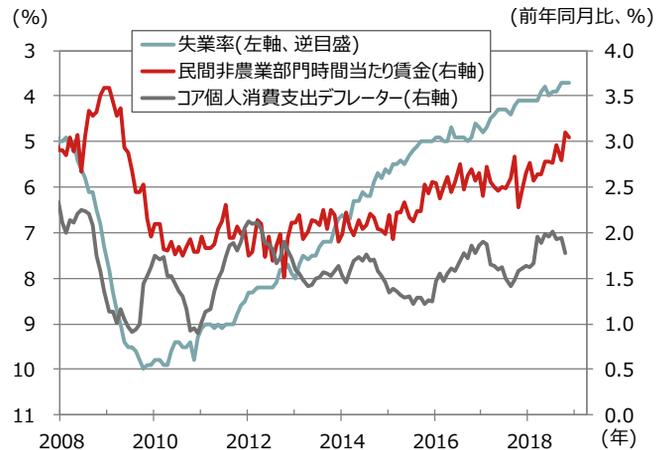
(注) 1：第4四半期の前年同期比 2：第4四半期平均値

3：エネルギー、食料品を除く 4：年末または中長期の目標レンジ中央値

(出所) FRB資料より野村アセットマネジメント作成

図2：米国の失業率、賃金、物価

期間：2008年1月～2018年11月、月次



(注) コア個人消費支出デフレーターはエネルギー、食料品を除く。2018年10月まで。

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

12月21日

米耐久財受注・出荷(11月)
米個人所得・消費支出・消費
支出デフレーター(11月)